

学校教育目標を具現化するための授業改善

- 日常的な校内研修を通して -

教職研修課 長期研修員 藤井美賀

1 主題設定の理由

2004年12月に出された ECD 生徒の学習到達度調査 (PIISA) の 2003 年度実施結果によると、日本は、読解力において順位も平均点も加盟国の平均水準に落ち込んだ。また、学校以外での勉強時間は週平均 6.5 時間と、加盟国平均の 8.9 時間より短く、数学の学習内容に興味があったり、得意と感じたりする割合も平均より低かった。この結果からは、子供の学力低下と学習意欲低下が起きていることがうかがえる。

文部科学省は、第 15 期中央教育審議会答申で『ゆとり』の中で『生きる力』をはぐくむ』ことが提言されて以来、一貫して子供たちに学力を定着させようとしてきた (資料 1)。しかし、学力や学習意欲の低下が学習到達度調査等の結果に表れたことを、教育現場に働く私たちは謙虚に受け止める必要があるであろう。

このような中で、静岡県は、教育計画『人づくり』2010 プラン』を作成し、地域、保護者に対して、

これからの静岡県の教育の方向性を示した。また、2003 年の「静岡県教職員研修指針」では、『人づくり』2010 プラン』で示された教育を実現するために、これからの教員に求められる資質や研修の方向性を示した。これらに沿って、学校全体で子供たちを育てるためには、教員一人一人が一層指導力を高めなくてはならない。

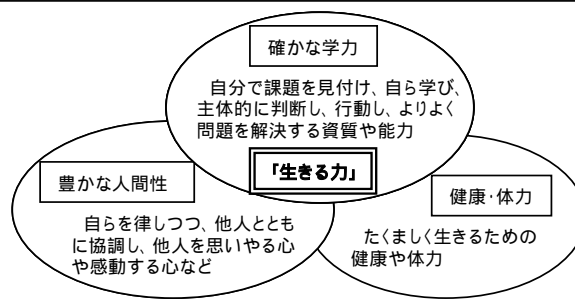
しかし、現状では、小学校では担任が全教科を教えることが多いので、研修教科を決めて、教科ごとに、あるいは学年ごとに研修を進めることが多い。そのため、校内研修が研修主任や研修部任せになってしまっており、このような研修体制では、個々の教員が自己課題をとらえにくく、自らの資質や能力を高めようとする意識は薄い。

そこで、個人研修を核とした校内研修の体制をつくることにより、日常的な授業改善を進める個人研修とそれを支える全体研修の両方を充実させることができる。そのためには、自校の目指す子供の姿を示した学校教育目標を具現化することを目的として校内研修を進めることが有効だと考えた。日々の授業を通して目指す子供像に迫ろうとすることで、教員にとって必要感のある研修となる。また、全員が同じ方向で取り組むことができる。

以上のことから「個人研修を核とした校内研修のシステムを構築すれば、日々の授業改

【資料 1】『生きる力』と『確かな学力』

学校では、完全学校週 5 日制の下、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力などの『生きる力』をはぐくみます。この『生きる力』を『知』の側面から見たものが、『確かな学力』です。



『『確かな学力』と『豊かな心』を子どもたちにはぐくむために...』 (文部科学省)より引用

善が進み、学校教育目標を具現化することができる」という仮説を立て、研究テーマを「学校教育目標を具現化するための授業改善 ～日常的な校内研修を通して～」と設定した。

2 研究の目的

個人研修を核とした校内研修システムを例に、日常的に授業改善を進め、学校教育目標を具現化する手だてについて考察する。

3 研究の方法

- (1) 小学校における校内研修の課題を明らかにするために、C市内小学校において、次の二つの調査を行った。(平成16年9月実施)
 - ア 研修主任対象(全研修主任17人中16人回収)
 - イ 研修主任以外の教員対象(Aグループ:研究発表を控えた3校84人
Bグループ:研究発表は控えていないが、進んで研修を行っている3校62人)
- (2) 校内研修を学校経営の柱としている学校への訪問調査を行った。
- (3) (1)(2)から、以下の観点に沿って「個人研修を核とした校内研修のシステム」について構想する。
 - ア 小学校における校内研修の課題
 - イ 学校教育目標の具現化を目指す校内研修
 - ウ 日々の授業実践に基づいた創造的な個人研修
 - エ 個人研修の充実を通して校内研修を活性化させる方策

4 研究の内容

3(3)で述べたように、アンケート結果から校内研修における課題を見だし、学校教育目標を具現化するための日常的な授業改善の進め方について構想する。

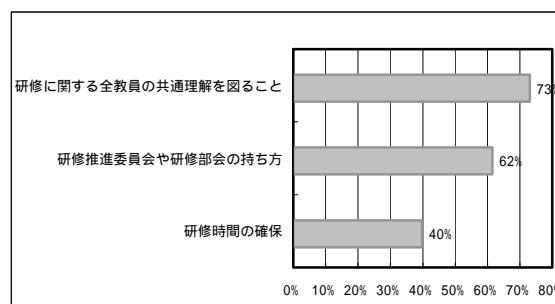
(1) 小学校における校内研修の課題

小学校における校内研修の実態を明らかにするためにC市内小学校においてアンケート調査を行った。その結果、校内研修の現状について、以下ア～ウの3点が明らかになった。

ア 共通理解の重要性

研修主任、教員ともに、校内研修を充実させるためには、研修についての共通理解を図ることが重要であるという回答が最も多かった。また、教員では、校内研修を充実させるために校内のコミュニケーションをよくすることが重要だという回答が多

【資料2】研修を運営する上での課題(研修主任)



かったが、これも共通理解の重要性を指摘したものである(資料2、3)。

そこで、各校が目指す子供の姿を示した学校教育目標の具現化を校内研修の目的とし、教員同士が互いの実践を基に話し合う、開かれた研修にする必要があると考えた。

イ 個人研修の現状

自主研修の内容は、読書が48%と最も多かった。一方、自主的なサークル活動への参加は、10%と、最も少なかった。また、この設問に対する無回答が15%あったが、その多くは学校外の自主研修に取り組んでいないのではないかと考える(資料4)。

これらの結果から、教員は個人研修に対して、授業や生活での指導にすぐに役立つ知識や技術の習得を求めていること、個人研修への取組には差があることがうかがえる。

また、研修主任の自由記述の中に、「研修内容、研修方法のパターン化を求める教員が多いように思う」という回答があったが、教員には子供の成長を保障する義務があることから、一人一人が研修への意識を高め、自己の資質・能力を向上させるために、前向きに取り組む必要がある。

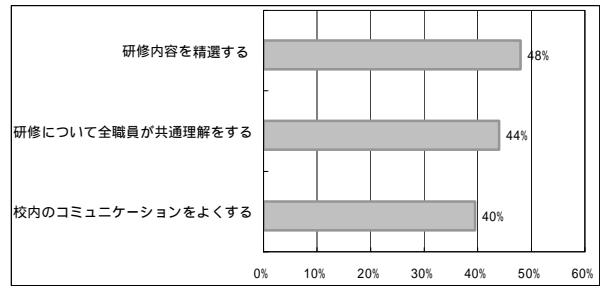
このようなことから、日々の授業実践に基づいて、主体的、継続的な個人研修を行う必要があると考える。

ウ 校内研修に対する教員の意識

Aグループの学校では、校内研修に多くの時間をかけているので、研修の軽減を望む回答が多いと予想したが、軽減を望む回答は3分の1程度であった(資料5)。これは、研修の効果を実感しているからだと思われる。

一方、Bグループの学校では、校内研修を充実させるために、研修の形態については、グループ研修が有効であるという回答が多かった。また、個人研修が有効であるとする割

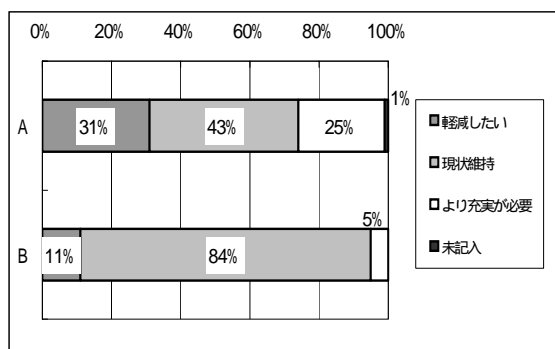
【資料3】より校内研修を充実させる方策(教員)



【資料4】1学期と夏季休業中に、学校外で取り組んだ自主研修の内容

自主研修の内容	人数の割合
1 本や資料	49%
2 教科の講習会等	17%
3 講演会	15%
4 自主的なサークル	10%
5 その他	7%
6 無記入	15%

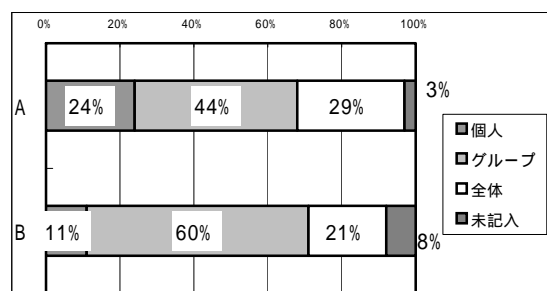
【資料5】校内研修を充実させる必要性(教員)



合は、Aグループに比べて少なかった。これは、個人の課題が日常の中で意識されていないからだと思われる(資料6)。

これらのことから、校内研修をより充実させるためには、個々の教員が、日々の授業実践に基づいた個人研修を主体的に行うことが必要だと考える。

【資料6】校内研修を充実させるために有効な研修の形態(教員)



(2) 学校教育目標の具現化を目指す校内研修

4(1)アで述べたように、学校教育目標の具現化を目指した校内研修を推進することが大切である。

学校教育目標は学校の目指す子供の姿を示したものであり、それに迫るために、学校におけるすべての活動は行われている。中でも校内研修は、「毎日の授業改善を通して目指す子供の姿を具現化する」という重要な役割を果たしている。

そこで、学校教育目標は、子供たちと全職員にとって常に意識することのできるものにしたい。そのために、保護者や子供による学校評価、教員の思いや願いを反映した内容にすることや、皆に具体的なイメージがわくように具体的な子供の姿を、分かりやすい言葉で表すことが大切である。

ア 学校教育目標を受けた校内研修テーマと具体的な方策の設定

(ア) 学校教育目標を受けた校内研修テーマ

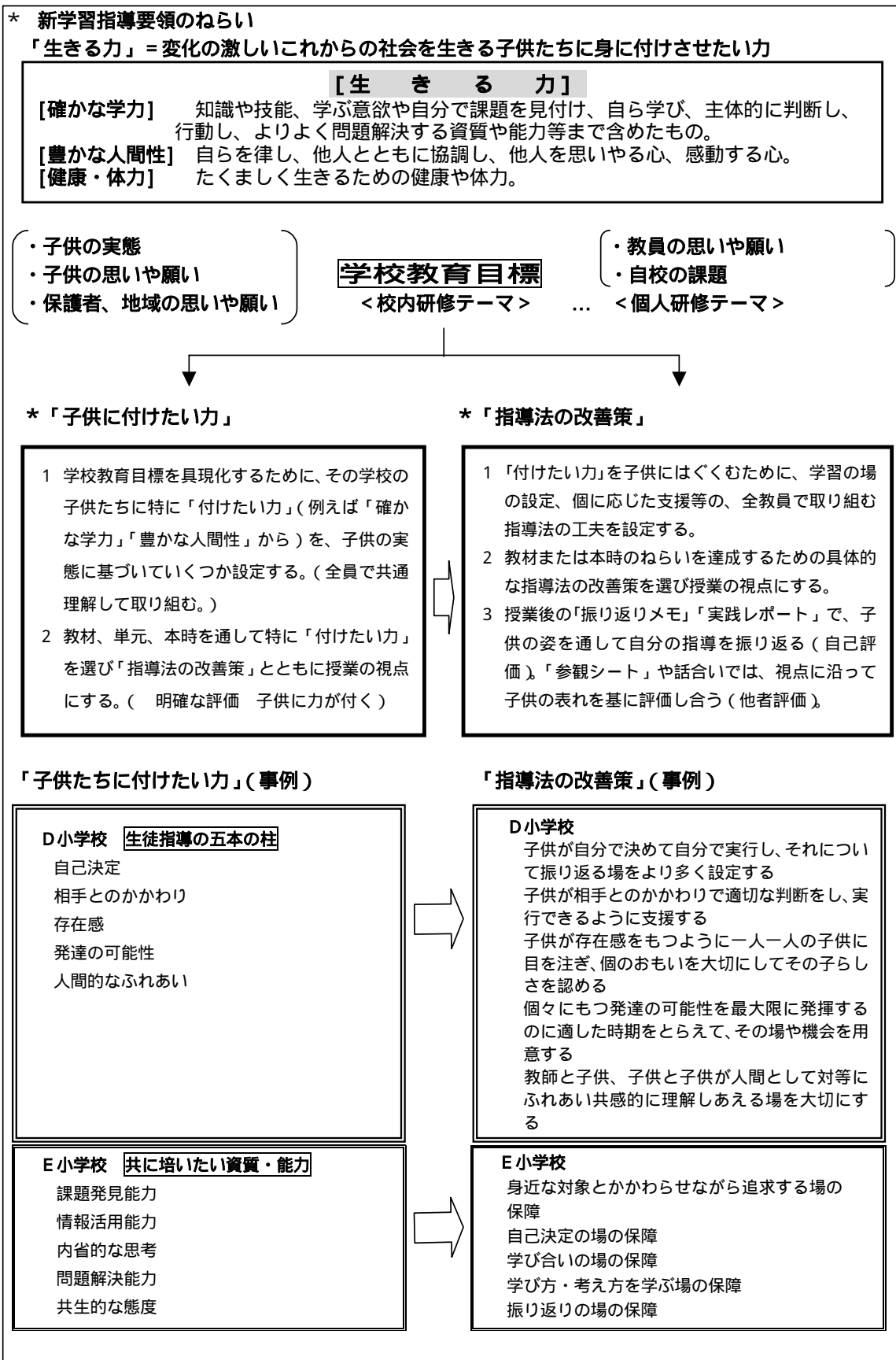
校内研修テーマは、校内研修の方向性を示したものである。学校教育目標を具現化するためには、全教員の共通理解の下、それぞれが創意工夫して取り組めるものにしたい。そのためには、子供の実態とそれぞれの教員の問題意識を基に、授業を通して子供に付けたい力を明らかにし、学校教育目標を受けて、研修テーマを設定する必要がある。

また、校内研修を進める上では、より具体的な実践項目を校内研修の柱として考えることが大切である。校内研修を通して、全員が同じ方向で子供に力を付けるための指導法の改善策を設定しておき、それぞれが自分の課題意識をもって研修に取り組むことが、校内研修を充実させるために有効だと思われる。

(イ) 「子供に付けたい力」「指導法の改善策」の設定と共通理解

校内研修を通して学校教育目標を具現化するためには、全職員が意見を出し合い、今年度特に「子供に付けたい力」と、そのための具体的な実践項目としての「指導法の改善策」を明確にし、全職員で共有することが必要である。その改善策を、個々が創意工夫して授業に取り入れ、実践を重ねることが学校教育目標の具現化につながる(資料7)。

【資料7】「子供に付けたい力」と「指導法の改善策」



校内研修を通して学校教育目標を具現化するためには、学校全体で、授業を通して「子供に付けたい力」を明確にしておくといよい。それにより、目指す子供の姿をより具体的にイメージできるので、個々の教員がそれぞれの創意を生かした授業改善に取り組みやすくなる。また、学校教育目標の具現化を意識して「子供に付けたい力」を設定することにより、教科を超えて相互に評価し合うことが可能になる。このように「子供に付けたい力」をはぐくむためには、子供の実態を把握し、教員の課題意識を基に「指導法の改善策」を設定し、それを校内研修の実践項目として全員が共通理解し、取り組むことが有効だと考える。

以上のことについて、訪問調査を行った学校を例に具体的に述べると、E小学校では、「子供に付けたい力」として「課題発見力」「情報活用能力」「内省的な思考」「問題解決能力」「共生的な態度」を挙げている。そして、これらの力をはぐくむために、「身近な対象とかかわらせながら追求する場」「自己決定の場」「学び合いの場」「学び方・考え方を学ぶ場」「振り返りの場」を授業の中で保障することを「指導法の改善策」として共通理解し、実践している。これらを意識して授業を構想し、実践していくことで、校内研修テーマ、ひいては学校教育目標の具現化に結びついていくと考える。

D小学校では、校訓「自立 愛」の実現を目指し、「感動ある学習の創造 - 生徒指導が機能として働く学習指導 - 」を研修テーマに校内研修を進めている。子供に育てたい「生徒指導の五本の柱」を、「自己決定」「相手とのかかわり」「存在感」「発達の可能性」「人間的なふれあい」とし、学校での全活動において育てる場を設定している。授業を通して子供にこれら五つの力を付けるために、「子供が自分で決めて、自分で実行し、それについて振り返る場をより多く設定する」「子供が相手とのかかわりで（相手の主体性も大切にしながら）適切な判断をし、実行できるように支援する」「子供が存在感をもつように一人一人の子供に目を注ぎ、個のおもいを大切にその子らしさを認める」「個々にもつ発達の可能性を最大限に発揮するのに適した時期をとらえて、その場や機会を用意する」「教師と子供、子供と子供が人間として対等にふれあい、共感的に理解し合える場を大切にする」などの指導をしている。

今年度は「一人一人の感動をもっと見つけ語り合おう」「自己決定の場を大切にしていこう」を校内研修の重点にし、学年研修、全体研修等で本音で語り合うことを通して、教員に確かな指導力を付けることを目指している。全教員が校内研修の方向性を共通理解して実践していることで、「生徒指導の五本の柱」が授業において指導法の改善を図る視点として機能していた。

このように、学校教育目標の具現を目指し、授業で「子供に付けたい力」と有効な「指導法の改善策」を設定し、全教員が共通理解して実践することによって校内研修が深まり、学校教育目標を具現化していくことができると考える。

イ 学校教育目標を具現化するための「個人研修テーマ」設定

4(1)イで述べたように、個々の教員がより主体的、創造的に個人研修に取り組む

必要がある。そこで、一人一人の教員が、学校教育目標を具現化するために校内研修を通してどう授業改善に取り組むかを個人研修テーマとしてもち、自ら日々の授業実践を行うことが大切であるとする。

個人研修テーマは、学校教育目標に示された目指す子供の姿を踏まえて、子供の発達段階や実態に即し、より具体的に設定するとよい。「活発な話し合いにする発問の工夫」「子供の思考を助ける板書の工夫」「楽しみながら力を付けるノート指導」「温かい人間関係をはぐくむ場の設定」等、教科のねらいに迫るためのもの、授業構想にかかわるもの、学級づくりにかかわるもの等が設定できるだろう。校内研修を通して学校教育目標を具現化するためには、一人一人の教員が個人研修テーマを設定し、それを意識して日々の授業を行うことが大切である。また、個人研修テーマを学級経営案や指導案の中に位置付けることで、互いの相違を認めたり、よい点を参考にしたりすることができると思う。

(3) 日々の授業実践に基づいた創造的な個人研修

ア 創意・工夫を生かした授業の振り返り

これまで述べてきたように、学校教育目標を具現化するためには、日々の授業実践に基づいた創造的な研修を、自ら行う必要があるとする。

(ア) 「振り返りメモ」と「実践レポート」

教員としての力量を高めるためには、自主的に日々の授業実践を振り返り、指導法を改善していく必要がある。それぞれの教員が、自分の必要に応じた研修に日常的に取り組むことで、教員としての資質、能力を伸ばすことができると思う。そこで、授業実践を振り返り、次の指導に生かすための「振り返りメモ」と「実践レポート」を取り入れた校内研修を提案したい(資料8)。

【資料8】日々の授業の「振り返りメモ」(例)

学校教育目標			心豊かにたくましく生きる子	
校内研修テーマ			生き生きと表現し、ともに高め合う子の育成	
個人研修テーマ			子供たちが意欲的に話し合うための発問の工夫	
月日	時	教科「教材」	気になったこと (子供の表れ等、事実を書く)	備考 (気が付いたこと等)
1月11日	5	国語 「ふしぎな竹の子」	(全)何人もの子供が、同じことを繰り返し発言していた。途中からぼんやりする子供も見られた。 (A男)全体での話し合いで、友達の発言を否定ばかりしていた。落ち着きがなかった。	・子供が飽きていた。発問と子供の興味とが合っていなかった。 ・昼休みの後だったので、眠くなった子供もいたと思う。 ・思うように発言できず、いらいらしていたようだった。
1月12日	2	算数		

毎日の授業を振り返り、個人研修テーマにかかわる子供の表れを書くことで、自己評価ができる。自己評価をすることが、次の指導の改善につながり、それまで気付かなかった課題を自覚することもできる。このときには、事実と解釈とを区別して記録することが大切である。この「振り返りメモ」を継続することにより、自分の授業における指導の成果と課題を明らかにすることができる。また、子供の表れが変化する過程を把握することもできる。「振り返りメモ」は個人の記録とし、公開する必要はないだろう。また、基本的な形式を示し、具体的な内容は各自に任せると、自分で使いやすい形に工夫するなど、活用されやすいと思われる。

学期末には、「振り返りメモ」を基にして学期を通しての成果と課題を「実践レポート」にまとめ、次の学期での授業改善の目標設定に利用するとよい(資料9)。全員が個人研修への取組の成果と課題を「実践レポート」にまとめ、それを互いに読み合って共有することで、個人研修での取組のよさを全体に広げることができる。

(イ) 「参観シート」

自分で実践を振り返るだけでなく、授業を公開し、他の教員からよい点や改善点の指摘を受けて次の指導に生かすことも、一人一人の力を伸ばすためには必要である。

さらに、個人研修テーマに基づいて実践するだけでなく、他の教員の授業を参観することによっても、充実した研修を行うことができる。他学級の授業を参観し、子供の学びの姿や教師のかかわり方を実際に見ることで、自分の授業の参考にすることができるからである。また、授業参観後、授業の視点に沿って授業者により点や改善点を伝えることは、授業者にとっても大変勉強になる。そこで、「参観シート」を書くことが、日々の授業改善のために有効だと考える(資料10)。この方法により授業者は客観的に自分の授業を見つめ直すことができ、参観者も自分の授業を振り返る機会を得るため、授業改善が進むと思われる。

【資料9】学期末「実践レポート」(例)

<p>学期末「実践レポート」 ()年()組 名前()</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育目標を具現するための個人研修テーマ「 」 2 個人研修テーマへの取組と成果 3 取組から明らかになった今後の課題と考察

【資料10】「参観シート」(例)

<p>(1)年(2)組(国語)科「参観シート」 参観者名()</p> <p>教材「ふしぎな竹の子」 授業の視点(個人研修テーマ) 「子供たちが意欲的に話し合うための発問の工夫」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子供のよい表れ 2 気になった子供の表れ <p>* 用紙は授業者が用意する。 * 参観者は簡単に記録し、口頭で伝える。</p>

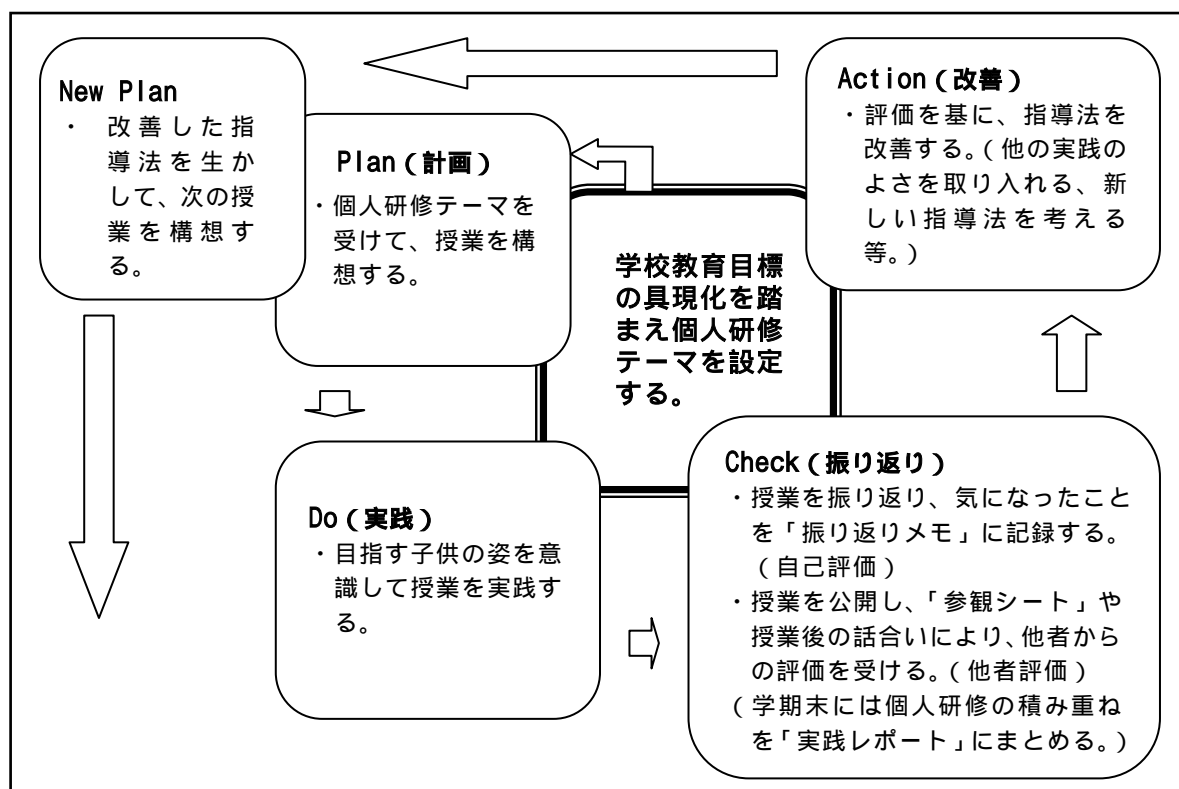
「振り返りメモ」や「参観シート」等はどれも、授業の視点に沿って具体的な子供の表れで書くことにより、成果と課題が明確になる。「教員の力量は、授業を通して向上する」と言われることから、授業を公開し合い、参観し合う校内研修の体制をつくることは大切である。

D小学校では、普段から気軽に声を掛け、授業を見合っては意見を交換し合うという方法を校内研修に取り入れている。これは、個々の教員の力量を高めるとともに、よい授業を無理なく校内へ広げていくための一つの方策だと思われる。

イ 主体的、創造的な個人研修にするためのPDCAサイクル

「振り返りメモ」や「参観シート」を用いて、「計画(Plan)」「実践(Do)」「振り返り(Check)」「改善(Action)」を繰り返すことで、学校教育目標を具現化するための、主体的、創造的な個人研修が可能になる(資料11)。

【資料11】主体的、創造的な個人研修にするためのPDCAサイクル



主体的、創造的な個人研修は、授業を通して学校教育目標を具現化するために、自分がどのように研修に取り組んでいくかを明確にし、個人研修テーマとして設定することから始まる。日々の授業を振り返って「振り返りメモ」に記録したり、授業を公開して意見をもらったりする中で、自分の指導のよさや課題等が明らかになる。それを基に、指導法を改善していくことができる。

このように、PDCAサイクルを意識して新しい実践につなげることで、次の計画を見直し、改善することができる。と考える。

(4) 個人研修の充実を通して校内研修を活性化させる方策

日々の授業改善を進めるためには、個人研修を核とした校内研修の充実を図ることが必要である。

ア レポート形式を取り入れた校内研修計画

校内研修を通して学校教育目標の具現化を目指すとき、個人研修の成果を全体研修に広げることが大切である。そのためには、個人の創意・工夫を生かしたレポート形式を取り入れた校内研修とするための組織的な取組が必要だと思われる。

個人研修を充実させるには、前述の「振り返りメモ」を活用したい。日常的にこれを活用して個人研修を行うとともに、全体研修では「実践レポート」や「参観シート」を取り入れることで、校内研修がより活性化するとと思われる（資料12）。

【資料12】レポート形式を取り入れた校内研修計画

月	行事予定	全体研修・学年研修	個人研修
4	入学式 始業式 健康診断 懇談会	・校内研修テーマの設定 ・「子供に付けたい力」と「指導法改善策」の設定 ・年間の校内研修計画を立てる	・個人研修テーマの設定 ・個人研修計画を立てる（授業公開提案授業の時期と内容等）
5	遠足 家庭訪問	・計画に沿って学年（団）授業研究（5～7月）	・授業公開、参観 ・「参観シート」
6	プール開き 授業参観	・事後研修会	
7	個人面談 学期末評価	・1学期の研修のまとめ ・「実践レポート」を基に1学期の実践について話し合い(全体研修)	・1学期の授業実践を振り返り、「実践レポート」に成果と課題をまとめる
8	水泳教室 夏祭り参加	・2学期の計画、準備	・個人研修テーマの見直し ・自主的な研修への取組 ・2学期の準備

個人研修への計画的な取組のために、必要に応じて「自主的な授業公開を学期に2回、授業参観を毎月1回は行う」等、個人研修を実施する回数や時期の目安を研修部等で決める。

毎日の「振り返りメモ」は、個人の記録として継続していく。授業を行って気になったことを、子供の表れを中心に、放課後等を使ってメモするようにする。「振り返りメモ」を活用した毎日の振り返りと改善の積み重ねが、一人一人の教員の力を伸ばすことになる。また、公開授業や、提案授業を行ったときには、他の教員からの他者評価を受けることができるので、その評価を基にその後の指導を改善するようにしたい。

学期末には、「振り返りメモ」を基に各学期の個人研修の取組を「実践レポート」にまとめる。学期ごとに実践を振り返り考察することで、自分の研修における成果と課題が明らかになる。また、「実践レポート」を基に、個人研修への取組の成果を全員で共有できるよう、全体研修で話し合う。このとき、全員の「実践レポート」を事前に読み、全体研修の場で話し合うことで、時間を有効に使った話し合いができると考える。

「参観シート」の活用については、授業者が事前に指導案と「参観シート」を全員に配り、可能な範囲で参観してもらい、評価を受ける方法がよいだろう。そのためには、指導案は、ポイントをしばった簡潔なものにする必要がある。より具体的によさや改善点を指摘してもらえるように、本時のねらい、授業の流れ、授業の視点（個人研修テーマ）を明確にすることが有効である。また、参観者は「参観シート」の視点に沿って、指導のよさや改善点などを書くことがよい。授業者が次の指導に生かすことができるよう、授業後にできるだけ早く渡すことが効果的だと思われる。

校内研修の一環として提案授業を行った場合は、やはり「参観シート」を書いて授業者に渡すとともに、それを基にして話し合いへ参加する。全体研修やグループ研修での話し合いにおいては、限られた時間の中で効率的に話し合う工夫も必要なので、「参観シート」を有効に活用するとよい。

イ 個のよさを全体に広げる話し合いの工夫

アンケート調査の回答に、「全体研修のときに、話し合いが焦点化されず時間の無駄が多い」という意見があった。確かに、限られた時間の中で話し合いをすることは難しい。

そこで、グループ討議を進めたい。各学期末の「実践レポート」を基にしたグループ討議では、「事前にレポートを読んで、気付いたことをメモしたものを持って話し合いに参加する」「話し合い後、研修部でそれを回収し記録として残しておく」「一人一人の意見を全体で共有するために、時間を区切って発言する」などの工夫をしたい。

また、グループでの話し合いを活性化させるためには、グループのメンバーに変化をもたせることも有効である。実践レポートの教科、教員の年齢等のバランスを考え、メンバーを替えて話し合うようにすると、話し合いが活性化されるだろう。

全体研修での話し合いの計画については、研修推進部が行い、話し合いの記録を基に、校内研修全体の方向性を明らかにしていく必要がある。

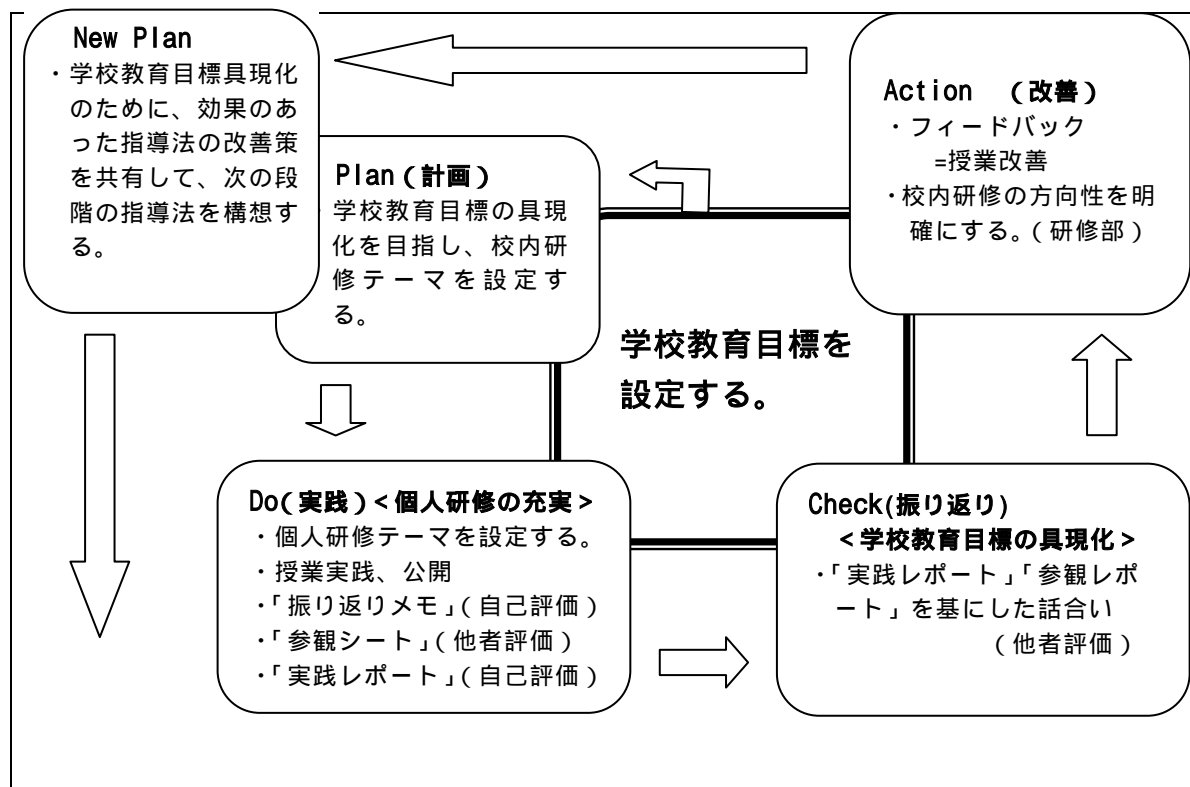
訪問調査を行ったG小学校では、個人研修を土台にした校内研修を進めている。「学習指導レポート」「授業参観レポート」「生徒指導レポート」「研究会等参加報告レポート」など、校内研修での取組のすべてにかかわるレポートを書いて、事前に読んだ上で、意見をもって話し合いに参加する形式をとっている。また、話し合いを活性化させるために、前・後半20分ずつのグループ討議の後、全体で感想を発表し合うワークショップを行っている。実際にワークショップに参加してみると、全員が発言する場が確実にあることや、メンバーを変えて行う短時間でのグループ討議により、緊張感のある中で多くの教員の意見を聞くことができると感じた。また、それぞれの実践のよさとそれに対する考察を出し合うことで、自分の実践を見つめ直すとともに、今後の指導の参考にできることから、個人研修が校内研修を充実させていることを実感した。

ウ 個人研修の充実を通して校内研修を活性化させるPDCAサイクル

4(4)アで述べたように、レポート形式を取り入れて校内研修を活性化させていくためには、PDCAサイクルを意識した取組をすることが有効である。個人研修の充実を基に、学校教育目標の具現化に向けて、意図的、計画的に、「計画」「実践」「振り返

り」「改善」を繰り返すことで、その充実を図ることができる（資料13）。

【資料13】個人研修の充実を通して校内研修を活性化させるPDCAサイクル



5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

研究の結果、以下のことが明らかになった。

- ・学校教育目標を校内研修の中に位置付けることにより、研修の方向性を教員が共通理解し、同じ方向に向かって研修を進めることができる。
- ・学校教育目標の具現化を目指した個人研修テーマを基に日々の授業に取り組み、その実践を話し合う場を校内研修に計画的に位置付けることにより、日々の授業実践に基づいた創造的な研修を行うことが可能になる。
- ・一人一人の教員が、主体的、創造的な個人研修を行うことにより、資質・能力を高め、校内研修を充実させることができる。
- ・マネジメントサイクルを意識した校内研修を行うことにより、学校教育目標の具現化を図ることができる。

(2) 今後の課題

- ・個人研修を核にした校内研修の充実を図るときの、研修主任と研修推進部の役割やリーダーシップの在り方について明らかにする。
- ・レポート形式を取り入れた校内研修の課題を明らかにし、校内研修をより充実させるための方策を工夫する。